

3 学期始業式 校長講話（1 月 9 日）

新年明けましておめでとうございます。

今年は曜日の関係で年が明けてから長く過ごせた冬休みでした。どんな冬休みでしたか？ 2 学期の終業式で「命を大切に、また 3 学期にここで元気な姿で会いましょう」と話をしましたが、その約束をしっかりと守ってくれ、大きな事故やけがの知らせは聞いていません。そのことを大変うれしく思います。ありがとうございます。

さて、学校としては最後の学期である 3 学期ですが、年としては新しい年のスタートです。去年もその年に関係する話をしましたが、今年もそんな話をしたいと思います。

年の表し方は、「西暦」では 2018 年で、「和暦」では平成 30 年です。この和暦は日本だけに通用する言い方で、天皇が代わると変わります。今の「平成」も来年の 4 月までで、その後はまた新しい元号に変わるというニュースもありましたね。この二つを日本は使い分けていますが、古くは、中国で考えられた「干支」というものを使っていました。「干支」という言葉を知っている人は少ないと思いますが、「十干十二支」といったらピンとくる人もいないかもしれませんね。古代中国では、「^{こう}甲・^{おつ}乙・^{へい}丙・^{てい}丁・^ぼ戊・^き己・^{こう}庚・^{しん}辛・^{じん}壬・^き癸」という

^ね十干と、「^{うし}子・^{とら}丑・^う寅・^{たつ}卯・^み辰・^{うま}巳・^{ひつじ}午・^{さる}未・^{とり}申・^{いぬ}酉・^い戌・^い亥」の十二支とを組み合わせて、年や時刻、方角などを表していました。社会の歴史で習った「壬申の乱」や「戊辰戦争」などはこの干支で表した言い方です。野球の好きな子は「甲子園」を知っていますね。あの「甲子」も年号です。

前置きが長くなりましたが、今年 2018 年は、この言い方でいうと、戊戌（^ぼぼ・^{じゅつ}じゅつ）（^{つちのえ}つちのえ・^{いぬ}いぬ）の年になります。「戊」（^{つちのえ}つちのえ）は、土を表し、その土からあらゆるものが生み出されて繁ることを意味しています。「戊」の漢字にくさかんむりを付けると「茂」になりますね。一方の「戌」は漢字はよく似ていますが、「戌」に「一」を付け加えた字です。これは、茂った草などを刈り取って束ね、そこに刈り取りに使った刃物を置いた様子だといわれています。「戌」に似た字で「滅」という字がありますが、草木が枯れることを意味しています。つまり、今年 2018 年は干支でいうと、草木が生い茂る「戊」と、草木が枯れる「戌」と、まったく正反対の意味をもつ年です。

皆さんが、1学期・2学期とさまざまな活動を通して成長したことは、自分自身はもちろん、周りにみえる先生方、そして年末年始と一緒に過ごした家族の方々もそれを感じてくださったと思います。そして、それがこの3学期でさらに勢いよく成長するのか、それとも、大きくなる前にしぼんで枯れてしまうのか。どちらの可能性もある年だということが言えるでしょう。その分かれ目は、どんな目標を立てるか、立てた目標に向かって毎日をどう過ごすかにかかっていると思います。さあ、皆さんはこの3学期をどう過ごしますか。その様子を楽しみに見届けたいと思います。